

## 教科目名 都市計画 (City Planning)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 4 年 (教育プログラム 第 1 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2 単位 (後期 2 コマ, 授業時間 45.75 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
(1) 都市問題や都市計画に関する基礎理論が理解できる。(定期試験)			
(2) 都市計画的な見方、考え方を養うとともに、自主的、継続的に学習できる能力を養成する。(レポート)			
回	授業項目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 都市論 1. 1 都市の範囲 1. 2 都市の分類 2. 都市計画法及び関連法規 2. 1 都市計画法 2. 2 地域地区に関する法規 3. 都市計画の策定 3. 1 概説 3. 2 調査 3. 3 都市の将来ビジョン 4. 都市計画の歴史 5. 都市構造論 5. 1 田園都市論 5. 2 我が国への導入	○都市計画の全体像について解説する。 ○都市の意義と分類について学ぶ。 ○都市計画法及び関連法について理解する。 ○都市計画の策定手法、特に人口予測の手法と応用を理解する。 ○コンパクトシティやエコシティについて学ぶ。 ○都市計画の歴史について理解する。 ○代表的な都市構造論、特にハワードの田園都市論について深く学ぶ。	【理解の度合い】
15	後期中間試験		【試験の点数】 点
16	(試験の解説) 6. 土地利用計画 6. 1 必要性 6. 2 種類 6. 3 用途地域 6. 4 その他の地域地区 6. 5 地区計画 7. 建築基準法 7. 1 概要 7. 2 建築物と建築 7. 3 敷地と道路の関係 7. 4 建築確認 7. 5 建築可能な建築面積 7. 6 容積率 8. 都市の整備事業 8. 1 整備手法の種類 8. 2 土地区画整理事業	○わからなかつた部分を理解する。 ○土地利用計画の必要性と種類について学ぶ。 ○用途地域について理解する。 ○補助的地域地区について学ぶ。 ○地区計画について学ぶ。 ○建築基準法上の基礎用語を理解する。 ○建築基準法上の道路について理解する。 ○二項道路について理解する。 ○建築確認について学ぶ。 ○法定容積率を理解する。 ○容積率の算定手法について理解する。 ○市街地整備事業の全体像を理解する。 ○土地区画整理事業の仕組みを理解する。	【理解の度合い】
30	後期末試験		【試験の点数】 点
	後期末試験の解答と解説	○わからなかつた部分を理解する。	
履修上の注意	①都市計画は現実の日常生活の深く関連しているので、日頃から新聞を読む習慣を付けること。②都市計画専用の大学ノートを用意すること(ルーズリーフは不可)。		
教科書	平田・亀野・宮原・武井・内田, 環境・都市システム系教科書シリーズ 16, 「都市計画」, ヨロナ社		
参考図書	石井・湯沢・亀野他共著, 「最新 都市計画第3版」, 森北出版		
自学上の注意	都市計画に関するレポート(演習問題)を常時課すので、学生は自ら教科書や参考書、インターネット等を用いて調べて提出すること。		
関連科目	公園緑地計画、環境計画、地域計画学		
総合評価	達成目標の(1)~(2)について定期試験とレポートで評価する。 総合評価 = $0.7 \times (2 \text{ 回の定期試験の平均}) + 0.3 \times (\text{レポート})$ 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は、原則として実施しない。		
	【総合評価】 点		